

12月3日～9日 障害者週間

誰もが互いを理解しながら、
障害のある人もない人も
地域の中で共に生きる。



秋田ワークセンターで働く阿部隆徳さん

下北手にある身体障害者の入所授産施設、秋田ワークセンターで働く阿部隆徳さん(31歳)。
阿部さんは十八歳の時、東京で電車事故にあい、手足や右目に障害が残りました。県内の高校を卒業し、就職で上京した四月、初めての給料をもらった日の夜のことでした。頭に重傷を負い、三か月間は植物人間状態だったといえます。
しかし、高校までバスケットで鍛えていた阿部さんは、生死の境から奇跡的に回復。秋田に帰り訓練センターで

三年間のリハビリをし、平成三年からワークセンターで働いています。
「事故にあったのもすべて自分のせいなので、とにかく頑張りました。高校までは普通の体だったので、社会復帰したいという一心でした。その一念で、今の自分があると思います。考え方だけで前向きに生きていけば、理解してくれる人もいます。自分の考え方は間違っていないかった」。阿部さんは事故にあつてからの日々を確かめるように話します。
仕事場での阿部さんの担当は軍手製

作のミシンかけ。「数をこなすのは好きです。自分のできることを精一杯やるのは当たり前。妥協という言葉が一番嫌いです」。
阿部さんは十月に富山で開かれた障害者の全国スポーツ大会、きりんぴっく」に初出場し、ソフトボール投げで三位に入りました。百メートルも十秒の好記録で走ったそうです。
「五月から毎日少しずつ、重りをつけてたりしながら走る練習をしました。最初は転んで百メートルも走れなかったんです。二十秒を切れてうれしい」。

社会復帰したい という一心で、 今の自分があります。



ワークセンターで軍手製作



新世紀、ワークセンターの 年賀状をご利用ください

秋田ワークセンターでは、安くてきれいなカラー年賀状の印刷・販売をしています。どうぞご利用ください。お電話いただければ、見本をお送りします。

☎(833)7466